

II SSH 運営指導委員会の記録

【運営指導委員】(50 音順) ◎委員長, ○副委員長

氏 名	所 属 等
伊藤 稔	東京理科大学大学院科学教育研究科長
大古 輝夫	龍ヶ崎市立龍ヶ崎小学校長
高谷 直樹	筑波大学生命環境系教授
武若 聡	筑波大学システム情報系教授
○牧下 英世	芝浦工業大学工学部教授
◎吉瀬 章子	筑波大学システム情報系社会工学域教授

【管理機関委員(教育庁)】

氏 名	所 属 等
秋本 光徳	茨城県教育庁学校教育部高校教育課課長
長島 利行	茨城県教育庁学校教育部高校教育課副参事
谷津 勉	茨城県教育庁学校教育部高校教育課指導担当課長補佐
西田 淳	茨城県教育庁学校教育部高校教育課指導主事
鈴木 恒一	茨城県教育庁学校教育部高校教育課指導主事

【校内委員】

氏 名	所 属 等	氏 名	所 属 等
川村 始子	校 長	小林 徹也	SSH 部, 附属中
太田垣 淳一	副校長	出雲 辰雄	SSH 部, 附属中
高野 健二	全日制教頭	渡部 公仁	SSH 部, 高校 第 3 学年副担任
菊地 耕	附属中教頭	亀田 陽介	SSH 部, 高校 第 2 学年担任
寺田 義弘	全日制教務主任	富谷 廣紀	SSH 部, 高校 第 1 学年担任
鹿野 英一	附属中教務主任	坂本 伸吾	SSH 部, 高校 第 1 学年担任
室津 彰信	進路指導主事	氏家 萌	SSH 部, 高校 第 1 学年担任
田上 一洋	高校 第 3 学年主任	安納 俊	SSH 部, 高校 第 1 学年副担任
諏訪原 和子	高校 第 2 学年主任		
本橋 隆志	高校 第 1 学年主任		
中山 幸昭	附属中 第 1 学年主任		
大西 武彦	SSH 部, 部長		
湯原 雄一	SSH 部, 副部長		
高橋 茂	SSH 部, SSH 嘱託事務員		
片岡 亜矢子	SSH 部, 高校 第 3 学年 SS クラス担任		
齊藤 宗一郎	SSH 部, 高校 第 2 学年 SS クラス担任		

令和 2 年度 第 1 回スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会の記録

(1) 第 1 回スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会の記録

ア 実施日時 令和 2 年 7 月 17 日（金）13：30～15：00

イ 実施場所 オンラインにて分散実施

校内会場：茨城県立竜ヶ崎第一高等学校・附属中学校（視聴覚室）

ウ 出席者 別紙参照

エ 運営指導委員議事

（ア） 開会

1. 挨拶 主催者 秋本 光徳課長〔茨城県教育庁学校教育部高校教育課〕
研究指定校 川村 始子〔茨城県立竜ヶ崎第一高等学校校長〕

2. 委員の紹介

（イ） 委員長・副委員長の選出

委員長： 吉瀬 章子先生〔筑波大学システム情報系社会工学域教授〕

副委員長： 牧下 英世先生〔芝浦工業大学工学部准教授〕

（ウ） 協議 〔議長：運営指導委員会委員長 吉瀬 章子先生〕

1. オンラインでの生徒研究発表会について

（委員の先生方より）

- ・ 大学でも zoom での発表スタイルを模索している。今後も協力していきたい。
- ・ 限られた時間の中でよく仕上げる事ができた。研究では、なぜ、どうしてという動機付けが大切である。
- ・ 始め、音声・映像の状況が良くなかったが、最後には良くなった。レジュメから判断するとしっかりやれていたのではないか。次にこのような機会があるなら、生徒は画面に映る必要はないと思う。
- ・ スライドを撮影し、それを画面共有して発表をしてもいいのではないか。また、発表を録画し、再度見られるようにすることは理解を助けることになる。配信については課題を今後につなげてほしい。
- ・ 生徒の質問が良かった。日常の中でもそのやりとりがなされるようになるとなお良い。
- ・ 科学をやる上での作法として、発表の最後に自分自身を振り返るという締めくくりはない。科学のマナーに関する講座や講義があってもいいのではないか。スライドは生徒が映っていないでもいい。また、オンラインでの大学院生との意見交換などは効果的でないか。

（本校より）

- ・ 高校 3 年生は、続けてきた研究がコロナによって止まってしまった。
- ・ 高校 2 年生は、生徒研究発表会までなんとか来られたという気持ちである。
- ・ 中学生には内容は難しかったが、発表している姿を目標にと指導した。
- ・ 生徒からもっと質問が出てよかった。昨年は 1 年生もいたが、今年は 2 年、3 年しかいなかったのも質問が出にくい環境もあったのかもしれない。
- ・ オンラインで大学や大学生に生徒がアドバイスをいただいたことでかなり研究が進んだ。今後もこの取り組みを進めたい。
- ・ 質問が出て、やり取りを何度もせずに「ありがとう」で質疑を終えてしまう。課題である。今後も学校全体で「問う力」を向上させたい。
- ・ 大学の先生から直接的な意見を聞けて、大変参考になった。IT に関しては課題を今後につなげていきたい。

（西田指導主事より）

- ・ アイデア出しは素晴らしい。その先の生徒の研究レベルの向上を目指してほしい。

2. コロナによる事業計画の変更について

（本校より）

- ・ サイエンスカフェの企画の協力をお願いしたい。
- ・ マスキャンプはオンラインで実施予定。高校生がオンラインでの指導でどのくらい効果

が出るか考えている。

(委員の先生方より)

- ・ 小学校もオンラインでつながることを協力したい。

3. JST による意識調査について

(本校より)

- ・ うまくいっている点、そうでない点があるが、伸びてほしい項目には手ごたえがある。
卒業生のアンケート結果と比較すると、国際性について在校生が効果を感じていない点は課題。

(委員の先生方より)

- ・ そろそろ SSH 経験者の大学院生が出てくるのではないか。
- ・ ぜひ卒業生の活用を。

4. その他

(委員の先生方より)

- ・ 附属中学と SSH の関係は？

(本校より)

- ・ 学校としては 6 年間を見据えて運用していくことも考えていきたい。

(エ) 閉会

令和 2 年度 第 2 回スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会

(1) 令和 2 年度 第 2 回スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会は以下の日程にて実施予定。

- ア 実施予定日時 令和 3 年 2 月 20 日 (土) 13 : 30 ~ 15 : 00
- イ 実施予定場所 茨城県立竜ヶ崎第一高等学校 会議室